

港湾フォーラムを開催します

「地震・津波・液状化」その取り組み ～災害に強いみなとづくりを考える～

日時 5月19日(土) 13時～17時 **場所** 総合文化会館大ホール

東日本大震災発生から1年が過ぎました。四国でも近い将来、東南海・南海地震の発生が確実視され、私たちの住む西条市も大きな被害が出るのが危惧されています。地震が起こった際、大きな揺れや、津波、土地の液状化などにより、鉄道、道路等の陸上交通網が寸断される恐れがあります。その時、緊急物資の搬入や復旧復興には、多くの物資や機材、そしてひとを運ぶことができる海上交通網、それを繋げる「みなと」の重要性が注目されています。

今回、地盤工学がご専門であり、液状化に詳しい嘉門先生、東日本大震災被災で大きな被害を受けられた福島県相馬市の立谷市長、そして津波の専門家である富田上席研究官を講師にお迎えし、東日本大震災による被害の状況や、震災の貴重な体験、更には東南海・南海地震への備えなどについてご講演いただきます。

西条市の産業、市民生活の安全安心に深く関わってくる、災害に強いみなとづくりについて一緒に考えてみませんか。ぜひご参加ください。

■内容 ○基調講演会

- 嘉門雅史氏（地盤工学：香川高等専門学校校長）
- 立谷秀清氏（被災自治体市長：福島県相馬市長）
- 富田孝史氏（港湾空港技術研究所：高潮津波研究室長）

○パネルディスカッション

■主催 東予港湾整備促進期成同盟会、西条市

■問合せ 市庁舎別館港湾課 TEL0897-52-1236



フエウォッチング

フエの旧市街を歩いていると、日本人にも馴染みのある光景に出会えます。美しい鉢の中に創り出された見事な芸術作品「盆栽」。日本では、年配者の趣味とイメージする方もいると思いますがベトナムでは、国民的文化であるとされており、盆栽のことを「ホンノンボ」と呼び、愛されています。このホンノンボは、山と海を含めた大自然を表現するものとし、大きいものが好まれる点で日本とは異なります。ベトナムの家庭では、テト（旧正月）前に盆栽を購入し、新しい気分で新年を迎えるという文化があります。そのため、テト前には、各地で盆栽市が開かれ、若者からお年寄りまで品定めをしに集まってきます。このテトの花として、テトの時期に花を咲かせることから、南部では黄色の梅によく似た花（Hoa Mai）が、北部ではピンクの桃（Hoa Dao）が昔から好まれています。日本とは少し異なるベトナムの盆栽、ベトナムの街を歩くときの楽しみがひとつ増えましたね！



テト前の盆栽市の様子

フエ市防災教育支援事業コーディネーター 中村範子

大町自主防災組織とパナソニックヘルスケア(株)西条地区が災害応援協定締結 防災体制構築に向け地域と企業が連携

大町自主防災連絡協議会とパナソニックヘルスケア(株)西条地区とが、「共助」の精神に基づき地域と企業が協力して災害による被害の防止や軽減を図ることを目的として「災害に強いまちづくり応援協定」を締結しました。

調印式の会場となった市役所では、自治会やパナソニックヘルスケア(株)の関係者など16人が出席し、市長、東予地方局長代理の伊藤充総務企画部長の立会いのもと、日野喜政会長と地区長代理の澤田正典人事グループマネージャーによる協定の調印が行われました。



▲調印後の締結者と立会人による固い握手の様子。(左から)伊藤市長、日野会長、澤田グループマネージャー、伊藤東予地方局長総務企画部長

地域と企業が協定を締結するのは市内で2例目であり、地域と企業による実践的な防災体制を構築するモデルとして、今後の活動が期待されています。